

編集後記

▼前号でお伝えした、上座部得度式の折、タイから来日されたワット・パクナムの副住職様が、バンコク市内に入院されておりました。

ワット・パクナムにおいては、日本語をお話しになる唯一の方で、善光寺の留学僧のみならず、長年日本人僧の力強い支えになってこられた大切な方でもあり、住職夫妻はとり急ぎお見舞いに渡タイしました。幸いなことに、現在では日々快方に向かつておられるとのことで、関係者一同、安堵されております。私たちも、副住職さまの一日も早い完全快癒を心からお祈りしたいと思えます。

▼海外留学僧派遣育英会の留学僧五名の入選論文を掲載しました。

この論文はすでに、中外日報や「宗教と現代」誌上でも取り上げられており、内外からの評価の高いことの証左でもありましょう。

第四期留学僧各位は、それぞれの修行地で、すでに安居・勉強に励んでおられます。今後のご活躍を見守って参りましょう。

▼八月二十六日から一週間の日程で、黒田住職と海外留学僧派遣育英会常任理事の佐藤俊明老師がアメリカのロサンゼルスを訪問しました。

これは、ロサンゼルス禅センターの前角老師からの招聘によるもので、現地での法戦式に臨席するためでした。この折になされた佐藤俊明

老師の「提唱」はアメリカで禅を学び修行する人々に大きな感銘を与えました。詳細については、次号で特集を組む予定です。ご期待ください。

▼まさか？と思つて暦を見ると、今年も残すところひと月あまり。青空はどこへ行つてしまったのかと、うらみがましく空を見上げたあの短い夏への繰り言を、ついきのうまで言っていたのに……。物でも時でも、残り少なくなつて初めてその減り方の激しさにガク然とします。(小熊)

成寿 第十一号

昭和六十三年十二月一日発行

発行所 成寿山善光寺

横浜市港南区日野町一六〇四

電話 〇四五(八四五)一三七一

印刷所 神奈川新聞社出版局



乙女かんのん

丸い両手を合わせ
あお向いたあどけなさ
私にもこんな日があつたつけ
風の声も花の歌声も
小鳥の語る旅の話も
素直にきけた日
そつと拝めば
昔の日に帰してくれる
汚れ知らぬ乙女かんのん
乙女姉妹にきざまれて
ひそと草かげに身をよせる
路の行き帰りに
どうしてもただずまずに居られない
ひきよせられぬかづけば
清められ慰められて



横濱善光寺